

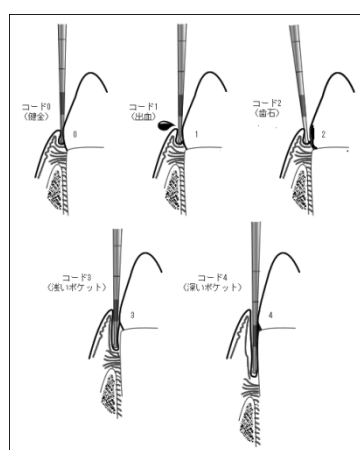
論文タイトル： Periodontal disease and percentage of calories from fat using national data.

論文著者： Hamasaki T, 他

論文掲載誌： Journal of Periodontal Research. 52: 114-121.

---

この研究は、2005 年の国民健康栄養調査、国民生活基礎調査、歯科疾患実態調査のすべてに参加した、日本全国の 20 歳以上の男女 3,043 名を対象に、性別、年齢、家族構成、家庭の経済状況、身体活動レベル、睡眠時間、歯科衛生用品の使用状況、飲酒習慣、喫煙習慣、特定健診の結果、血中脂質レベル、血圧、血糖値、服薬の有無、栄養摂取状況などを調べ、歯周病との関連を検証したものです。



歯周病の進行度は、地域歯周疾患指数（旧 CPI）を使用しており、専用の探針（プローブ）を用いて、歯肉出血・歯周ポケット・歯石の 3 指標により、コード 0～4 の 5 段階で評価します。

- コード 0: 健全
- コード 1: 出血
- コード 2: 歯石沈着
- コード 3: 浅い歯周ポケット
- コード 4: 深い歯周ポケット

（厚労省 e-ヘルスネットより）

対象者のうち、CPI がコード 0～2 の人は 1,672 名、コード 3～4 の人は 1,371 名で、この 2 群間で、生活習慣、歯科衛生用品の使用状況、血液検査結果、栄養素摂取量などを比較しました。

その結果、歯周病の進行度が低い群の対象者は、進行度が高い群の対象者に比べて炭水化物エネルギー比率が低く、脂肪エネルギー比率が高い食事をしていることが示されました。

今後さらに研究が必要ですが、栄養摂取状況と歯周病の進行には関連があることが示唆されました。